

## 百人邑が自社栽培の薬草を商品化

### 心の病に「半農×半ICT」

「半農×半ICT」の新しいカタチで雇用機会・社会復帰をサポートする就労継続支援A型・自立訓練多機能事業所の(一社)百人邑(安佐北区安佐町飯室、竹添寛二代表理事)は、自社栽培した薬草を加工した商品「浴湯材―当帰湯」Ⅱ写真左Ⅱと「柴胡とローマンカモミールを配合した薬草香」Ⅱ同右Ⅱの販売を開始した。



事業所は、平成28年に同所竹坂地

区にある竹添代表の実家を改修して開設。その1年前に竹添代表は、佐賀県の薬草研究所の指導を受けた。(有)呉緑化センターの支援で、パワーストーンで知られる黒曜石を仕入れて自社農場に埋設し薬草栽培に適した土壌を作り、29年から薬草の当帰と柴胡の栽培を始めた。3年間の試験栽培からテスト販売・アンケート調査を経て商品化した。作業するのは同事業所に通う精神疾患を抱える約20人。専門家の指導を受けながら耕作・植え付け・育成・収穫・乾燥・加工・パッケージングなど全てが手作り。「土とふれあい、汗をかき、農業

によって体力をつけて、薬を飲まなくても良い生活に戻してあげたい」と言う竹添代表。

ICT事業は、様々なデータ入力やホームページ制作・運営・更新代行、事務局運営代行などを手掛ける。元々パソコン関連業務が得意な通所者も



多く、社会復帰のアイテムとしてスキ

ルアップを目指している。農業で体を動かすことによつて、パソコン業務にも集中できる好循環が生まれているという。

商品の「当帰湯」は、天然乾燥した葉と茎が入った袋を浴槽に入れて湯張りをするだけ。肌荒れ・

肩こり・腰痛・疲労回復に良いとされ、血圧を下げる作用もあるという。6袋入り2000円。「薬草香」は、甘い香りの柴胡(薬草)とほのかなり(ハーブ)が一つになった、焚いて使用するお香。和化粧箱(12個入り)2000円。

わずか20本の苗から始めた薬草栽培は、現在3000本まで増やして商品化にこぎつけた。畑は同事業所の土地に加えて近隣の耕作放棄地も活用し、約4000平方メートルで広がった。現在、その一角に竹を骨組みにしたビニールハウスを作っているⅡ写真下Ⅱ。薬草の発芽率を高める施設でこれも手作り。百人邑の理念「働くとは傍を樂にし、喜びを共にする」が随所に垣間見えた。